

第2回 刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和元年10月11日（金）午前10時～11時30分

2. 場所

市役所 大会議室C

3. 出席者

会長及び委員17名（欠席3名）

事務局13名

4. 議題

（1）第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画の素案について

（2）その他

・今後の予定について

（1）事務局より説明（第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画 計画素案、資料）
（質 疑）

・ 委 員 資料34ページの地域における子ども・子育て支援の中で、「地域全体で子どもや子育てを見守る機運を高めることが重要」とあるが、具体的にはどのような方策があるのか。短期的には難しいとは思いますが、機運が高まることによって大きな力になると思われる。

資料35ページの子どもがのびのびと育つ教育環境づくりにおいて、「児童生徒」に対して、刈谷市としてどのような点に力を入れているか。

また、保育園事業の質を確保するためにどのような方策をとっているか。

・ 事務局 1点目について、資料42ページから43ページの「1-4交流と子育てネットワークづくりの充実」の中で「地域活動の担い手づくり」や「地域活動の担い手を支える仕組みづくり」、「地域住民の理解促進」といった施策を第1期計画から加えることで、地域全体で子どもや子育てを見守る機運を高めていこうと考えている。

2点目について、学校の教育環境づくりとしては、資料38ページ(5)の中で、基本目標を掲げ、具体的な施策としては、資料56ページから57ページ「子どもがのびのびと育つ環境づくり」として大きく3つの施策を挙げており、こうした施策を第1期計画からさらに充実させていくという考えである。

3点目について、資料41ページ「1-2 幼児教育・保育の充実」の中で、「保育環境の充実」が保育の質を高めることにつながっていくと考えている。より保育に集中できるような環境になるよう、働き方の改善に積極的に取り組んでいる。

また、「保育士・保育教諭の人材発掘」「保育人材の定着」といった施策の中で、良い人材の確保にも力を入れている。

- ・ 委員 子どもの数が減っている中で、教育の質を確保するためには、幼稚園・保育園の先生方の給料を小学校の先生並みに上げることが必要ではないか。それにより、先生方の頑張ろうとする気持ちを作り出すことが重要ではないか。

- ・ 事務局 刈谷市の施策としては、私立の保育園には給料の補助を出しており、単純に給料を上げれば、質の確保ができるのかどうかは疑問である。

- ・ 委員長 男女共同参画の観点からも、構造的な問題は社会全体の課題であり、すぐに解決できるものではないと思われる。

- ・ 委員 幼稚園や小学校、中学校でも保護者からのクレームが多く、先生のやりたい教育ができないのではないか。先生が自信や誇りをもって教育できるようにすることで、教育の質が上がっていくと考える。

 個人的な意見であるが、刈谷の教育の締め付けが厳しいように思われるが、保護者も学校任せにするのではなく、また、子どもたちも自分自身で考えられるようになることが重要であると思う。

- ・事務局 保護者からの意見に対しては、職員一人で抱えるのではなく、組織として対応することが重要であり、日ごろから職員同士の連携、組織としての対応を考えていく必要がある。
- ・委員 クレームを言ったもの勝ちという風潮があるが、幼児のうちから外に任せっ放しではなく家庭教育の大切さを親も子も考えることが重要であると思う。
- ・委員 刈谷の管理教育が厳しいという意見もあるが、そこには課題もあれば、良さもある。子どもたちに考える力、生きる力をつけてもらうために、心の教育にも力を入れている。先生たちは子どものために頑張りたいと思っており、そうした想いは最後には子どもに還っていくことになると思う。
- ・委員 教育の質を高めるためには、保護者の協力も先生の協力も必要である。先生と市民のボランティアでチームを組むことで、教育力がついていくと感じている。そのことで、保護者への信頼感も生まれると思われる。チームワークが大事であり、チーム教育に力を入れたい。
- ・委員 子どもたちは先生方に、目を向けてもらい話を聞いてもらい1対1でじっくり見てもらっていると思う。そういった状況を見ることによって、学校へ協力的な保護者が増えるのではないかと。
これは地域の問題でもあると思うので、地域全体で連携していけたらと思う。
- ・委員 子育て支援団体の一員として、就園前の母親をフォローしていきたい。地域で子育てを応援するのだが、例えば子育て支援センターの活動に積極的に参加するような保護者が、幼稚園や保育園の場でいいお手本になれるとよい。

・事務局 市としては、相手の主張を傾聴しつつ、出来るだけつながりを持てるように努力して支援している。

・委員 幼稚園の子どもたちは素直であり、先生方も頑張っていると思う。幼児期の教育と小中学校における教育の連動性が重要である。

・委員 働き方改革としてワークライフバランスが叫ばれている。仕事と生活を両立するために、時短勤務や育児休業といったもの以外に、来年の東京オリンピックに向けて、テレワークという手法もある。自宅にいなから仕事ができるメリットとして、保育士の数を抑えることが出来たり、通勤に伴う移動がなくなることから交通渋滞の緩和であったり、ガソリンの消費が抑えられエコにつながったりといろいろなメリットがある。
こうした、新しい働き方に対して、行政としての支援はないか。

・事務局 いただいた意見を関係部署へ情報提供して、市として共有していく。

・委員長 皆さんにさまざまな意見をいただいたが、4つの観点にまとめられると思われる。

まず、保育・教育の質の確保をどう担保するかという観点である。

次に、現代の社会・政策状況のなかのワークライフバランスについてである。働き続けたいという女性が増えており、働き方改革は社会の中で大きな課題である。

そして、幼稚園や保育園、小学校、中学校へと保育・教育の場が変わっていく中で、切れ目ない支援をどう保障していくか。ネットワークや連携をどのように確保していくのか。さらに、学童期以降の子ども・若者の発達保障についてである。

最後に、男女共同参画事業とのつながりから、ジェンダーの観点から教育的に考えられないかという観点である。

本日挙げた意見をどのように計画の中へ反映していくかを事務局とともに考えていきたい。

(2) 事務局より今後の予定について説明